戰後教育資料
61-6
537

クラーク奬學會設立趣意書

VI
511
天野 475

一、趣　旨

新しい日本の建設とそのホープとしての北海道開拓の使命を思う時、私共は北海道大學の確固たる基礎をすえ北海道の大地に巨大なる足跡を残されたウイリアム・エス・クラーク先生の業績を今新しく見直し讃仰せずにはおられないのであります

先生は、すぐれた科學者であり、尊敬すべき宗教家であり、そして偉大な教育者でもありました。しかも先生は、民族的意識を超越して、異邦北邊の本道に渡り、そのすぐれた一切の力を傾けつくして卓越した技術を與え開拓人としての高邁な理想を培つたことは先生の拓かれた曠野から幾多の傑出した指導者が花と咲き、本道開拓八十年の歴史に燦然と輝いていることによつても明らかであります

有名な「ボーイズ・ビー・アンビシャス」の一語は、獨り先生を追慕する人々の心に生きているのみでなく、今や明日の北海道を背負つて立つべき若き人々の胸に高い響をもつて迫つているのであります。私共は現在我國が當面している複雑な諸問題や將來その生くべき道などに思を至す時、本道の擔う使命はいよ〳〵重く、そのたくましくしかも健全な開發は一そう重要性を加えつつあるといわなければなりません

しかもこれを力強く推進するためには開發の基調を教育の振興におくと共に、クラーク先生の樹立した崇高な教育理想を復興し、この理想のもとに將來の本道開發の指導に當るべき有爲な人材を本道の青少年に求めなければならないと考えるのであります

別記の育英事業を目的とした**クラーク奬學會の**趣旨は正にここにあります

もちろん本事業は全道民の運動として展開するものでありますが特に、本道の教育にたずさわる教職員各位並びに關係者各位には率先御賛同下さると共に、兒童、生徒、學生諸君には、各位から本會の趣旨を十分にお傳え下さつてこぞつて、參加せられるよう格段の御高配をお願い致したいのであります。

代表　宮部金吾

二、事　業

一　一定の奬學金を交付することによつて青少年の育成を圖る

（奬學金の交付を受ける青少年は本道在住者にして、成績優秀なるも進學・研究に惠まれざる者を對象とした左に該當する者）

（イ）本道の大學に學ばんとする高校卒業生（學校長推薦による）

（ロ）農・林・工・鑛・漁業等の生産業に直接從事し、特殊なる生産技術を習得せんとする二十五才までの青年（市・町・村長又は團體推薦による）

註＝研究期間中の奬學金は奬學會と市・町・村自治體又は推薦團體が折半負擔するものとする

（ハ）優秀なる藝術技能を有し將來藝術を專攻せんとする青少年

註＝交付制度未定

二　奬學精神を基盤とする青少年運動を起し種々の事業を行う

（イ）本道の青少年團體と直結し、友愛精神の涵養、勉學心高揚、郷土の生産振興、生活文化の向上等を目的とする青少年運動を繼續する

（ロ）將來、奬學會館を設立し、年間を通じて全道青少年に利用せしめ、有益なる文化事業を行う

（ハ）更に毎年定期青少年大會を開き決議事項の實践運動を行う

三　奬學碑を建立し本道青少年の勉學指針とする

（イ）「少年よ大志を抱け」と刻みたる奬學記念碑を島松に建立し、全道青少年の勉學の指針とする

（ロ）毎年四月十六日にはクラーク奬學會記念祭を、秋には教育記念祭を催し、青少年に有意義なる事業を行う、

註＝本記念碑は、特志家の寄附と北大關係者及石狩支廳、廣島村の協力により、既に昭和二十五年十二月十日クラーク博士袂別の地廣島村字島松に建立さる

三、奬學資金の募金要項

この事業を達成せしめるためには多額の金額（目標三千万圓）を必要とするので出きうるだけ全道民參加による運動となることを念願し大體次の要領で募金したい

一　教育關係者、青少年よりの寄附

二　各市町村における生産、文化、その他各種團體よりの寄附

三　特志家による寄附（以上昭和二十六年度より開始）

四　奬學會記念バッジ販賣による募金（昭和二十七年度より開始）

發起人會（イロハ順）

委員長　宮部金吾　北大名譽教授

委員　伊藤誠哉　元北大學長
伊坂員維　道中學校長會々長
新田啓次郎　道PTA連合會々長
堀越義雄　帝國繊札幌工場長
岡村威儀　道教育長
鎌田理吉　道教育委員長
小野三男　道都小學校長會會長
高田次郎　北教組委員長
永井勝次郎　道監査委員長
山本梅雄　道高等學校長會理事長
福田藤楠　道副知事
福山甚三郎　福山會社々長
坂井一郎　道教育委員
佐藤麟太郎　札幌市教育部長
佐藤貢　雪印乳業會社々長
三浦秀夫　道市部小學校長會會長
島善鄰　北大學長
杉ノ目晴貞　北大理學部長
大阪澤田德藏　大阪農林會館支配人
平野千里　日本化機製作所常務取締役
京都飯塚直彦　京都養大教授
木原均　京大教授
下關里正義　北大名譽教授　大洋漁業研究所長

道外發起人會（イロハ順）

東京伊藤道郎　舞台藝術家
大塚良敦　苫小牧製紙副社長
嘉治隆一　朝日新聞出版局長
田中耕太郎　最高裁判所長官
矢内原忠雄　東大教授
増田甲子七　建設大臣
前田多聞　日本育英會々長
近衛秀麿　音樂家
安倍能成　元文部大臣
宮部一郎　家の光社會長

設立準備事務局

（札幌市北八西五、北大本部内、クラーク奬學會假事務所）

藤澤健夫
飯田廣太郎
長汐壽治
松生音次郎
卯月省三

VI-511